

International Student Center News



金沢大学
留学生センターニュース



*vol. 10
September 2006*



みくる つか わんぶく
轆轤を使って椀作り



ちやわんぶく
茶碗作り



ランチョンセミナー
こくさいこうりゅうげっかん
国際交流月間 2006

ジャパンテント 2006
にほんぶどうたいけん
日本武道体験





留学生センターの仕事

金大生の海外留学をもっと増やしたい

北浦 勝 (留学生センター長)

留学生センターの仕事は大別すると、(1) 外国人留学生に日本語、日本文化及び日本事情の教育をすること、(2) 修学上及び生活上の指導助言をすること、(3) 大学院進学希望の留学生に日本語の予備教育をすること、(4) 海外留学を希望する日本人学生に修学上及び生活上の指導助言をすること、などです。留学生センターはどの仕事においても成果を挙げていると自己評価していますが、当然のことながら今後もさらに上を向いて頑張らなければならない事項もあります。

ところで、金沢大学の外国人留学生の数がおよそ380名であるのに対して、交流協定を結んでいる大学へ留学する(派遣留学のこと。注参照)金大生の数は30名弱であり、外国人留学生の10%以下です。すなわち海外留学をする金大生の数を増やすこともさらに頑張らねばならない事項の一つです。

そのために「海外留学の手引き」を作成したり、「TOEFLを受験する金沢大学生のために」という冊子を作ったり、共通教育の「大学・社会生活論」の一コマを使って「留学と国際交流」の授業をしたり、ランチオンセミナーなどで最近海外留学から帰国した学生に留学の意味や良さを説明してもらうなど、あらゆる機会を通してP.R.に努めています。今夏のオープンキャンパスでは高校生を対象に「金沢大学へ入学して、留学することを考えませんか」と初めて呼びかけました。高校生は金沢大学のどこかの学部に入学することが先決ですから、「留学なんて」と相手にされない人もいましたが、頭のスミに記憶してくれていそうな人もいました。

若いうちに留学して異文化に接することにより、文化を比較したり、世界を意識した思考ができると思います。語学をマスターできる点も魅力ですが、将来の活躍の可能性を増やし、物の見方が多面的になり、相手への理解や考察に深みが出るのもメリットであると思います。もちろん外国人留学生のみなさんにも同じ成果が現れることを期待していることは言うまでもありません。

金大生のみなさん、留学に興味を持ってみませんか。

注：派遣留学とは協定を結んでいる大学へ3ヶ月以上1年以内で留学すること。派遣先の大学の授業料を払わなくてもよい。海外留学とは派遣留学だけではなく、学位取得を目的とした留学や語学研修などを含めた、一般的に言われる留学のこと。

しゃ しん み かな ざわ がく
写真で見る「金沢学」

ぶ どう たい けん ねん
○武道体験2006年

こう し
講師：

じょう どう まつ い けん じ つく ば だいがく ひ じょう きん こう し じょう どう はん し
 杖道：松井 健二 筑波大学非常勤講師、杖道範士

はち だん しん どう む そう りゅう じょう じゅつ めん きょ かい でん しん どう む そう りゅう じょう
 八段、神道夢想流杖術・免許皆伝、神道夢想流杖

しん かい し め ざ い
 心会主宰

けん どう え ど こう きち かな ざわ だいがく めい よ きょう じゅ ほう じん に
 剣道：恵土 孝吉 金沢大学名誉教授、NPO 法人「日

ほん ぶ どう じゅう がく いん だ い ひょう り じ かな ざわ だいがく けん どう ぶ めい よ し はん
 本武道修学院」代表理事、金沢大学剣道部名誉師範、

けん どう れん し ろく だん じょう どう ご だん
 剣道（錬士）六段、杖道五段

い あい どう
 居合道：ビットマン ハイコ 金沢大学留学生センタ

じょ きょう じゅ い あい どう ろく だん じょう どう よん だん から て どう さん だん
 一助教授、居合道六段、杖道四段、空手道三段



じょう どう
 杖道



けん どう
 剣道



い あい どう
 居合道



かなざわがく のうがくたいけん ねん
 ○金沢学・能楽体験2006年

こうし やぶ としひこ ほうしゅうりゅう しょくぶん
 講師：藪 俊彦 宝生流 職分
 ねん がつ か しゅうおうどう
 2006年 3月 7日 修篁堂

のう せかい おんな いっしょう かな
 「能の世界にみる女の一生」をテーマに「金
 ざわがく とくべつ かいさい こく
 沢学」特別コースを開催しました。12カ国
 だいがく がくせい りゅうがくせいおよ いったん し じん ふく
 5大学の学生・留学生及び一般市民を含む
 めい さん かしゃ か が ほうしゅうかい のうがくし
 33名の参加者が、「加賀宝生会」能楽師で
 やぶとしひこてい しゅうおうどう ぶたい のうがく かん
 ある藪俊彦邸の修篁堂舞台にて、能楽に関
 するこうぎ じゆこう
 する講義を受講しました。



モーツァルトの曲で「天女の舞」を舞う



能面をつけ「すり足」で歩いてみる



能面の説明



能の楽器に触れてみる

PII(プリンストン イン いしかわ)プログラム

本学文学部と部局間協定を結んでいるプリンストン大学がコーディネートし、「石川ジャパニーズ・スタディーズ・プログラム」(通称PIIプログラム)に参加するために来県している学生たちが、本学を訪問しました。

プリンストン、ハーバード、イエール、ペンシルバニア、コロラド、ニューヨーク、ブラウンをはじめとする13の大学で学ぶ43名の学生たち1人1人に対して、同じ人数の金沢大学の学生がエスコートし、交流を深めました。

エスコートに先立ち、本学の学生は留学生センターでのオリエンテーションに全員が参加し多文化接触について学習しました。



新しい友達と握手で交流の開始



森の授業に聞き入る学生達



金沢の伝統工芸の一つ「金箔」を貼る体験

金沢大学創立50周年記念館「角間の里」では「森の授業」や「金沢学」、学生による「アカペラコンサート」を行い、日本の伝統的な部分への理解を深めました。

PII プロジェクト・メンバー (敬称略)

文学部：中野 節子

教育学部：加藤 和夫

地域連携コーディネーター：宇野 文夫

留学生センター：北浦 勝、八重澤 美知子、太田 亨、ビットマン ハイコ



すっかり仲良くなったプリンストン大学の学生たちと一緒に次に来る約束をしました

相談指導部門

はるばる海を越えて来日した留学生の皆さんが、その留学目的を達成するためには、心身とも健康であることは言うまでもありません。
それに関して、重要なお知らせがあります。

その1. 11月に行われる留学生特別健診を必ず受診すること!!!

日本では、学校保健法・学校教育法等に基づき、子どもの頃から定期的な健康診断が行われています。健康である状態を維持し、増進するためには、自分から積極的に自己管理を行い、病気の早期発見や予防に努めることが大切です。同時に、大学という集団の中の一人として、自分以外の他の学生たちの健康への配慮も必要です。

日本人学生をはじめ大学で働く教職員のほとんどが、定期的実施される健康診断を継続的・習慣的に受けています。それと比較すると、留学生の受診率はとても低いのです。出身国を離れている留学生であるからこそ、健康には十分に気を付けて、留学生活を送ることが大切です。

留学生特別健診は下記の通り行われます。

○日時 11月7日(火)・11月10日(金)・11月16日(木)の3日間
13:30～16:00 (このうち1日だけ受診してください)
受付; 13:20～

○場所 保健管理センター (角間・事務局のある建物の1階)

○対象 今年度、金沢大学で健康診断を受けたことがない留学生全員

○その他 チューターなどが、必要に応じてサポートします

なお、詳しい情報は、10月に留学生センターHPなどでお知らせします。

その2. けがや病気の自己診断は危険です

金沢では秋から冬にかけて気温が下がり、雨や雪の日が多くなります。慣れない気候に体を引く留学生も少なくありません。頭痛・発熱・喉の痛みなど、体の不調が長引く時には、勝手な自己判断で放置せず、必ず医師の診察を受けてください。皆さんの健康に関して、身近で最も頼りになるところは、学内にある保健管理センターです。さらに多くの診察や治療が必要な場合には、病院などの機関を紹介してもらえます。医療費も補助体制が整っているため、日本人学生と比べて留学生の負担はずっと少なくなっています。

(「金沢生活ガイドブック」2006 医療・健康 P59-66 参照)

健康であることは留学生活を送る基本です。

自己管理をしっかりするとともに、健康診断・専門医の診察を忘れてはなりません。

国際教育研究部門

「留学疑似体験」

～「アメリカの大学の授業を体験してみませんか？」～

金沢大学留学生センターは、本学学生のための留学支援を大きな目標の一つとし、留学に関するより多くの情報や質の高いアドバイスを提供することに努めています。特に、国際教育交流部門では、学務課留学生係、外国語教育研究センターを始めとする関連部局と連携しながら、いろいろなイベントを企画・実施したり、各種パンフレットを作成したりしています。

中でも学生からの反響が最も大きいものの一つに、「留学疑似体験」のための講演会があります。これは、海外の大学の先生を本学にお招きし、本学学生や教職員を対象に、実際にご自分の大学で教えていらっしゃる授業を、形式、内容ともに、‘そっくりそのままに’再現していただくというもので、実施するのは、今年度（2006年度）が2年目です。この講演会はまた、共通教育言語科目「英語II」（アカデミックスキルズ1、留学英語、前期開講、旧カリキュラムでは「英語C」）の一部としても位置づけており、この科目の履修生には、講演者のシラバスに沿って、数十ページ分のReading Assignment（予習として本や論文を読んでくる宿題）や、講演後の宿題が課されます。

今年度の前期には、この講演会を二度実施しました。第1回目の7月6日（木）には、来日中のリーハイ大学（Lehigh University、アメリカ合衆国ペンシルバニア州）のKiri Lee先生をお招きしました。言語学をご専門とし、リーハイ大学の日本語教育の責任者でもあるLee先生には、*Japanese Grammar in Contrast to English Grammar* というテーマのもとで、日本語と英語を比較対照することにより、私たちが日常あまり意識することのない日本語の文法上の特徴のいくつかについて、お話していただきました。第2回目の7月13日（木）には、Lee先生と同じく来日中だった、ラトガース大学（Rutgers University、アメリカ合衆国ニュー・ジャージー州）のYoung-mee Yu Cho先生に、*Writing Systems of the World* というテーマで、文字の歴史についての講演をお願いしました。Cho先生には、昨年度の前期にも同じ目的の講演をしていただいたので、参加者の中には、一年ぶりのCho先生との再会を楽しんだ人もいました。

Lee先生の講演もCho先生の講演も、もちろん、英語を使って行われました。また、‘コール・アンド・レポンス’方式と呼んでもよいような（?）、先生と学生が対話をしながら、一緒になって授業を進めていくという形で行われ、参加した学生たちは、このやり方と先生方のエネルギーなご指導がたいへん気に入ったようです。Lee先生もCho先生も、講演会に参加した学生たちのパフォーマンスにたいへん満足していらっしゃいました。本学学生に接し、



Kiri Lee先生と学生たちの記念撮影（2006年7月6日）

「日本の未来は明るいと思いましたよ!」とコメントしてくださる先生方に、私も感謝の気持ちでいっぱいです。同時に、本学学生への期待もいっそうふくらんできました。

「留学疑似体験」の講演会が、今後どのように発展するか楽しみです。このような企画をきっかけにして、より多くの本学学生が海外留学に興味を持ち、チャレンジしてくれたらと思います。

国際教育交流部門 斉木 麻利子

日韓共同理工系学部留学生コース (通称：日韓プログラム)

「平成18年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会を開催しました！」

平成18年7月21日(金)日韓プログラムの全国協議会を開催しました(写真左)。今年は本学が当番校となり、全国から本学を含めた35校と新潟韓国教育院長が参加しました。前半は来賓の文部科学省担当係長の小野寺多映子氏と慶熙大学校国際教育院長の金重燮氏の講演、後半は筑波大学・神戸大学・埼玉大学・富山大学・静岡大学の担当者と本学から太田が出席してパネルディスカッションを行いました。

今回の協議会では、日韓プログラムが当初予定の10年間を超えて、さらに継続延長されることなどがわかるなど、数多くの新しい情報が共有できました。

協議会の報告書は以下のURLに公表されています。

<http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp/publications/pdf/H18JKconfKanzw.pdf>



平成18年度日韓プログラム協議会の様子



7期生3名(左側)と先輩プログラム生2名(右側)

「第7期生を迎える！」

第7期生は第4期以来の3名受入れになります。3名とも工学部進学予定で、電気電子システム工学科、人間・機械工学科と機能機械工学科に配置が決まっています。特に機能機械工学科へは7年目にして初めての配置です。

写真(右)は2006年3月に韓国側の予備教育が始まってまもなく、予備教育実施機関である慶熙大学校国際教育院を訪問したときの写真です。7期生を迎えるために、一時帰国していた金沢大学の日韓プログラム生2名も集まってくれました。

担当：太田 亨(日韓プログラム担当)

大学院予備教育（日本語研修コース）

兼六園での「一日アクティビティ」紹介

公園を散歩中に外国人留学生から日本語で話しかけられ、インタビューを求められたとしたら、どうしますか？「いえ、ちょっと……」と言って、立ち去りますか？それとも？

実は、これ、5年前から金大留学生センター日本語研修コースで行われている授業の一コマなのです。このコースは、挨拶も数字の1、2、3もわからない段階から、日常生活に必要な今後の研究生活の基礎になるレベルにまで、わずか17週間で日本語力を高めるという集中コースです。従って、留学生達の努力は並大抵のものではありません。通常は開放センターの教



室で初級日本語を学んでいます。この日ばかりは、朝から出かけます。まず加賀友禅伝統産業会館で館内見学と着物の着付け体験。女性は写真のように華やかな着物姿に、男性は紺の着物に帯姿となります。ある男子留学生は、「私はキモノを着ましたが、ヤクザのオヤブンのようでした」と、笑いながらその写真を見せてくれました。着付けの代わりに、友禅染ハンカチの絵付けをするときもあります。

着物体験のあとは、いよいよ兼六園でのインタビュー開始です。教室で習った日本語を留学生が外で試す絶好の機会といえます。まずは、兼六園を散策している観光客の中から協力して



くれそうな人を探して、声をかけていきます。とはいうものの、恥ずかしくてなかなか言い出せない学生、積極的に声をかけては次々に断られ、自信をなくしていく学生、かと思うと要領よく母国の土産を渡しながら自分のペースに巻き込み、余裕をもって相手と会話を交わす学生など、さまざまです。引率の教師は、少し離れたところからその様子を見守っています。

留学生達は、「私は金大の留学生で

す。今日本語を勉強しています。ちょっと日本語でインタビューしてもいいですか」から始まり、「お仕事は何ですか」「私の国、モンゴルについてどんなことを知っていますか」「好きなスポーツは？」「私のおじいさんはブラジル移民ですから、それについていろいろ質問してもいいですか」などと、関心のあるテーマについて、日本語で次々に質問をしていきます。この日のために、テーマの絞り方、質問項目の立て方、インタビューの依頼表現、お礼の言い方、相づちの打ち方など数回にわたって事前に準備を行ってはいますが、それ以外に、留学生達の度胸とコミュニケーション力がものをいいます。

この一日アクティビティを実施する時期は、コース17週中の10週目前後で、一般の日本人が話す会話の文体（普通体）にも徐々に慣れてきた時期にあたります。更に金沢という風土も考慮して、春学期は梅雨を避け、秋学期は雪が降り出す前にと、カリキュラムを調整します。



インタビューのあとは、付近の店で昼食をとります。留学生自ら日本語で電話予約したランチを味わいます。和食や箸が初めての学生もいて、これも日本文化体験の一つになっています。午後からは大学へ戻り、インタビューの結果を日本語でまとめます。このまとめの作業がなかなか大変です。レポートにまとめた内容は、後日日本人学生を対象に発表したりもします。

このように「一日アクティビティ」の活動は、短い時間ではありますが、生きた日本語が実践でき、かつ金沢の文化にも触れられるというので、毎回留学生から高い評価を受けています。これは、教師が指導仕方などに改善を重ねていることもあるでしょうが、なにより大きいのは、この活動が基本的に知的探求心や文化・社会性を満たし、日本語運用力を伸ばすことができるからではないでしょうか。

（非常勤講師：島 弘子）



かなざわ だいがく たん きりゅう がく 金沢大学短期留学プログラム(KUSEP)

わたし いちねんかん 私の KUSEP の一年間



Luengtrairat, Ploywarong

タイ、チュラロンコン大学

わたし ねん がつ はじ に ほん き かなざわだいがく たん きりゅうがく
私は2005年10月に初めて日本に来て金沢大学の短期留学プログラ
ム (KUSEP) に参加しました。専門は日本に関係ないので、日本
語や日本のことなどを勉強したことはありませんでした。しかし自
分は昔からずっと日本のことに興味があったので、KUSEP プログ
ラムに参加できて、私にはとってとても面白かったです。日本語が日本で簡単に勉強できるし、
日本の文化も体験できるし、それにいろいろな国から来た人とも友達になれます。私にとって
KUSEP の一年間は言葉で表す以上に本当にいい経験になりました。この一年間の中には、い
い思い出がいっぱいあり、これからも忘れないと思います。

わたし に ほん く まえ すこ に ほん ご べんきょう はじ ほんとう に ほん せいかつ はじ
私は日本に来る前に少し日本語を勉強しましたが、初めて本当の日本の生活が始まったとき
は結構大変でした。勉強した日本語はほとんど使えませんでした。自分の言いたい事はつき
りいえませんでした。今この感想文を書いていることは、そのときには想像できなかったぐら
いのことです。でも KUSEP の日本語の授業を取って一生懸命頑張ってだんだん日本語が分か
るようになりました。すると、日本語を勉強するのが楽しくなりました。日本語の授業中には
さまざまな面白い活動があります。クラスの活動を楽しみながら、さまざまな日本語の練習が
できました。先生たちもとても優しく大変お世話になりました。

わたし にとって、KUSEP の一番良かったのは日本語の授業と、岡沢先生とビットマン先生の「日
本文化体験」という授業です。その授業のおかげでいろいろな日本文化を勉強できます。この
授業で勉強するというのは、見るだけではなくて、講義を聞くだけではなくて、文字通り自分
で日本文化を体験します。茶道とか、生け花とか、金箔とか、漆とか、私はどうも上手できま
せんでしたが、一生一回でもちゃんとやってみたことはすばらしかったと思います。本当に楽
しかったです。

KUSEP のクラス以外にほかのいろいろな研究がしたい人は KUSEP の学生としてやってみ
ることもできます。私も今年研究室に通って研究に参加しました。研究する途中でいろいろな
問題がありましたが、まわりの人たちから助けってもらって、やっと私でも少しだけでも何か
作れることを感じて良かったと思います。私は本当にいろいろな研究のことを教えてもらいま
した。ただの学問ではなくて、研究室で日本人の研究者と一緒に働くことも勉強になりました。
本当にいい経験だと思います。

最初に私の心配した毎日は、いつからかはっきりわかりませんが、だんだん楽しい毎日に変
わってきました。クラスを楽しんで、日本の生活を楽しんで、自分を楽しんでいます。私の
KUSEP の一年間はそろそろ終わりますが、私の心の中には、まだたくさん生き残ります。本
当にいろいろなことについてみなさんに「どうもありがとうございます」と伝えたいです。



Stapleton, Brian

アイランド、ダブリンシティ大学

JAPAN TENT2006金沢職人大学校：金沢
大学「日本武道体験」杖道補助講師として

僕は2005年10月から、留学生として金沢大学のKUSEPというプログラムに参加しました。日本に来る前に、アイルランドで二年間日本語、日本の文化や習慣を勉強していました。はじめは、日本語はあまり良くできなかったのですが、日本にいる間に、KUSEPプログラム、先生方、それと日本で作った友達のおかげで少しずつ上手くなってきて、話せるようになりました。日本語を分かるようになると、色々な活動をして、色々な国から来た人と出会って、一年間の留学はとてまたのしくなりました。

東京、京都、神戸、金沢の中から、金沢を選択しました。これは賢明な選択でした。私は田舎の子だから、金沢のほうが自然が多いし、のんびりした雰囲気がありそうでした。東京のような大きな街に比較して、金沢のほうが良く勉強出来ると思っていました。実際、やはりそうでした。来てまもなく、プレイメントテストがあるから、来る前に少し復習しておいたほうが良いと思います。僕は金沢大学に来て初めて参加した授業は日本語C1でした。この授業で、僕の日本語は上手くなったと思います。これまで勉強していた日本語を伸ばしたり、新しい文法を習ったり、聞くことと話す練習をしたりしました。色々な国から来た人と会話をしましたから、日本語を勉強しながら、色々な国のことも理解出来るようになりました。実を言うと、日本に来る前日本についてあまり興味がありませんでした。日本の文化とか勉強しましたが熱意がありませんでした。しかし、日本に来てから僕は日本に対して興味が発展しました。

岡沢先生とビットマン先生のおかげで、日本の文化や習慣を分かるようになり、日本人の考え方が分かるようになったと思います。岡沢先生の日本文化体験という授業で色々な活動が出来ました。例を挙げると、茶道、金箔、陶芸、生け花、座禅など体験出来ました。そのうえ、岡沢先生と一緒に和太鼓もしました。演奏も出来て、とてもいい経験になりました。

また、ビットマン先生の杖道の授業をとりました。日本に来る前から格闘技に興味があったので、この授業は僕にとってとても面白かったです。杖道しながら、日本の武道の意識を分かるようになりました。自分の考え方に影響を与えました。

また、ビットマン先生の空手道授業にも参加しました。とても難しくて厳しい内容でしたが、体力と能力をアップできて、とても面白かったです。帰国しても続けたいです。忘れられない経験でした。

休みの時、色々な事をしました。京都、東京、名古屋、富山、北海道に旅行しました。そして、二回、お相撲を見に行きました。日本ではサッカーをあまり放映しないから、相撲が大好きになり、幸運に本場も見ることが出来ました。

もちろん、日本で困ることがありますが、ユーモアを解する心があれば日本で上手く生活出来ると思います。

この感想文を書いている間、本当に悲しくなりました。友達はもう大体皆が帰国してしまいました。僕も、まもなく帰ります。この一年間の中で個人的に沢山習ったと思います。一年間の記憶は一生忘れられません。お世話になりました、有り難うございます。

皆さん、さよならではなくて、じゃあー又ね。

日本語・日本文化研修プログラム

他大学との教育連携の試み

約380名の国費日本語・日本文化研修留学生（以下、「日研生」と記します）は、現在50以上の日本の大学に分かれて「日本」を学んでいます。世界の日本語教育の事情が大きく変化する中、「日研生像」をどう捉えるべきか、多様化する日研生のニーズにどのように応えるべきか常に問われています。

各大学に分かれて研修を受けている日研生は日本について何らかの関心を共有しているはずですが、それぞれの大学で地域性を生かした特色のある教育プログラムを編成しながら、それを更に異なる地域と共有する試みを大阪外国語大学と共に実施してみました。



調査報告会（金沢合宿にて）



九谷焼陶芸作家福島武山先生の講演

その第一歩は大阪外国語大学の日研生を金沢に招いて、合同で研修を行う形で行いました。12月22日から24日までの2泊3日の形で合同合宿を行う予定でしたが、大雪に見舞われ、一度出発した大阪外国語大学のバスが先に進めない状態となり、引き返し、合宿が中止となるという波乱のスタートでした。めげずに仕切直して、学期末の2月10日から12日までの期間に金沢合同合宿を実施することが出来ました。

各大学の日研生は混合の3班に分かれて、「日本の庭園文化」「日本の陶芸」「武家の暮らし」という3つのテーマについて事前に調査をしました。日研生同士が連絡し合いながら、課題を分担し、金沢でそれを一つにまとめ上げて、合同で発表しました。期末試験などとも重なり、準備時間がかかなり限られていたにも拘わらず、この発表はかなりレベルの高いものだったと思われまます。

自分たちが事前に調べたものを実体験するという形で合宿が進められました。金沢の日研生と共に言語・文化について合同調査を行っている日本人学生も5人加わり、各班に入りました。更に、金沢の日研生たちの里親約10名も部分的に参加しながら、合宿をサポートしていただきました。

金沢合宿で里親と共に加賀料理を作る体験や武家屋敷及び兼六園散策、加賀万歳体験、九谷焼体験を行いました。大雪で直前のスケジュール変更となったにも拘わらず、大阪の学生達を暖かく迎えてくださった加賀料理研究家の加藤重和先生、加賀万歳保存会の皆様、ながまちぶけやしきのむらけみなさまけんろくえんかんりじ長町武家屋敷の野村家の皆様、兼六園管理事務所の皆様、九谷焼陶芸作家の福島武山先生

と見附正康さん、九谷焼陶芸館の皆様の心温まる優しさやそれぞれの職業を愛する美しい気持が純白な雪の中の日本体験を更に美しく輝かせていました。大阪外国語大学の日研生の「作品を作る時、どのようなことを心掛けていますか」という質問に対する「どんな時でも手を抜かない、心を抜かないことです」という福島武山先生のお言葉を是非見習いたいと思わずにはいられませんでした。そして、里親の皆さんもいつものさりげない優しさで合宿を見守ってくださいました。言うまでもなく、金沢合宿は地域の皆さんのこの暖かいサポート体制なしには決して実現しなかったと言えます。



作った加賀料理を味わう日研生達

金沢での合宿はどちらかと言えば修行型のもので、厳しいスケジュールの中で行われて、参加者に対する要求度も高かったと思います。中島記念国際交流財団からの支援を受けて実施した事業でしたので、単に時間を共有するのではなく、金沢でしかできない研修を共に行うことにより日本文化研修のレベルを更に高めることを目的にした試みでした。残された課題も無論多く、学生同士が自由に交流する時間が不足していたことや金沢の日研生とにほんじんがくせいと仲良くしていたため、大阪外国語大学の日研生との交流が期待していたほどに深まらなかったことなどが挙げられます。

双方型教育連携を実現することを目的に、合宿の第2弾を同じ日研生に対して9月6日から8日までの2泊3日という形で大阪で実施しました。今度は大阪外国語大学が企画・

実施を担当し、金沢大学がお世話になるという形でした。

大阪ではお好み焼き体験や落語家の案内で川から大阪の街を探検する「なにわ探検クルーズ」参加、そして混合グループ（金沢、大阪の日研生と金沢の日本人学生）別に実施した街散策や空堀の古い町並み散策、箕面の滝見学などを行った後、大阪外国語大学でグループ別報告会を行いました。この合宿に金沢の日研生と共に合同調査を行った3名の日本人学生も参加しました。



空堀散策（大阪合宿にて）



箕面の滝の下で一時的涼を求めて

大阪外国語大学との日研生教育の連携は2004年からSCSを介して実施している合同修了研究会の形で始まり、本年度の試みで実際の合同研修へと発展しました。日本文化教育のレベルを高めながら、意義のある教育連携を実現することを目的に、更なる努力を重ねていきたいと思っています。

日本語・日本文化研修プログラム担当
ルチラ パリハワダナ

総合日本語コース

総合日本語コースは、金沢大学で学ぶ留学生（金沢大学で教育・研究を行っている研究者も含まれます）なら、誰でも受けられる日本語プログラムです。前期は4月から、後期は10月から始まります。初めて受講を希望する留学生は、プレシメントテストを受けてください。平成18年度秋学期は、10月5日（木）に、総合教育棟A3教室で午前10時から行われます。

さて、新学期に向けていくつかお知らせがあります。

日本語クラスのお知らせ

1) 時間がなくて日本語が勉強できない皆さん！週1回の日本語クラスがあります

角間キャンパスでは7レベルの普通クラスと漢字クラス、技能別クラスを開講しています。漢字クラス、技能別クラスは週1回のクラスですが、普通クラスは週に3～5回あり、専門の勉強が忙しい人はなかなかすべての授業に出席することができません。そこで、そんな人のために私たちは週1回の日本語クラスを用意しています。週1回ならなんとか出席できそうだという学生の方は、ぜひ利用してください。

1. 週1回コミュニケーション下クラス（C1・C2レベルの学生が対象）……火曜日1限
2. 週1回コミュニケーション上クラス（D・Eレベルの学生が対象）……金曜日2限

2) 新しい技能別クラス（「ディスカッションクラス」）ができます

平成18年度秋学期から、新しい技能別クラスが一つ加わることになりました。Fレベルの学生対象の「ディスカッションクラス」です。相手の話を正確に理解し、自分の考えを明確に表現することにより、日本語での円滑な「やり取り」ができるようになることを目指します。……火曜日2限

3) 医学部でも日本語の授業が受けられます

総合日本語コースは、現在角間キャンパスだけで開講していますが、実は医学部キャンパスでも日本語のクラスが受けられることを皆さんは知っていますか。小立野キャンパスでの総合日本語コースがなくなって困っているという声を聞き、平成18年度春学期から、火曜日と木曜日の1限目に、医学部キャンパスで日本語の授業を行っています。さまざまなレベルの学生と一緒に学んでいるのでいろいろな問題もあるのですが、担当者は楽しく学ぶことができるようがんばっています。下に、春学期の担当者からの春学期の報告を載せます。ぜひ皆さんも参加してください！

楽しい日本語クラス開講！

今年の4月から週に2時間、医学部で初級日本語クラスが1クラス開かれるようになりました。このクラスの参加者のレベルはいろいろでしたので、初心者とAやBを修了した人との2つのグループに分けました。また週に2回しかありませんし、ほとんど自宅学習をする時間がない事情がありますから、学生が今一番必要に感じていることに的をしぼって学習しました。今期の例では、A、B修了の学生6名は、聞き取ったり話したりすることがもっと上手になりたいというのが希望でした。そこではじめは、ビデオ教材を使って主に聞き取りをしていましたが、途中からは文法も勉強したいという学生側の要望により、文法事項を中心とした会話の練習も加わりました。作文や簡単なプレゼンテーションも練習しました。

日本語が初めてのグループは在籍数6名ながら、各個人によって時間的余裕が全く違うため、進度がずれてきました。だんだん個人レッスンのようになり、教師としても大変でした。『みんなの日本語I』を中心にそれぞれの学生に目標点を設定したり、独学では困難なポイントを一緒に学習したりしました。

私たち教師は目的に応じた教材を選んだり、学習が効率的に進められ身に付いたものになっているかなどチェックしたり、学生の希望を授業に組み込みました。複式授業のため教師はどちらのグループにも付きっきりにはなれないため、学生が自発的に学習を進めざるをえませんでしたが、しかしそのためにかえって教え合いやのびのびとした雰囲気が出来、活気がある楽しいクラスになりました。急がず、でも休むことなく日本語に触れていることで楽しく日本語力をつけてほしい、というのが私たちの願いです。

越野良子・桜田千采（平成18年度前期 医学部クラス担当）

4) 鶴間キャンパスで「講義の聴解」クラスが受けられます

角間キャンパスで開いている総合日本語コースの授業のうち、技能別クラスの「講義の聴解」は、遠隔授業で鶴間キャンパスでも受けられます。医学部保健学科5号館5104室（中教室）で受けてください。受講レベルはD～Eレベルです。あまり知られていないのか、鶴間キャンパスからの参加者はまだいません。ぜひ参加してください。

学生の作文紹介

去年10月に来日し今年7月に帰国した、フランスのナンシー第2大学からの留学生：Alexandre François QUENTIN（通称アレックス）さんの作文をご紹介します。アレックスさんがこの作文を書いたのは、留学生センターの「総合日本語コース」B（初級後半）クラスに在籍していたときです。（明らかな間違いは直してありますが、大筋は原文のままです。）

趣味

アレックス

私の趣味は父母を手伝うことです。小さい時、6才ぐらいから、ずっと家族と一緒に働きました。

その時、私の親は農民でした。いつも外にいました。兄は私より12才年上ですから、彼みたいになりたかったです。大きくなって、強くなって、私はだんだんするべきことができるようになりました。たとえば、牛を育てる事や森で木を切るのは父が教えてくれました。仕事は大変でしたが、私は本当に喜びを味わっていました。りっぱなしぜんの中で、色々なことを習いました。働きながら親の話を聞いて、大人の世界がわかるようになりました。生活を味わうために、大変なことは必要だと思います。仕事の後で、少し犬と遊びました。

今、親は年をとったので、また畑で自分の力をあげたいです。たしかにそれはふつうの趣味ではありません。けれども、その仕方、私の感謝を親に見せてあげられます。

初級後半クラスで、しかも「趣味」というテーマの作文としてこのような文章が書かれたことは予想外で、担当教師は皆感動してしまいました。留学生の作文の日本語力や内容のレベルの高さに感心するのは決して珍しいことではありませんが、「感動する」というのはそうそうあることではありません。アレックスさんのこの作文はたしかに人を感動させる力を持っていると思いますが、それは何故かと考えてみると、この短い文章の中に、「生きるということの本質」を表現しているからではないでしょうか。外国語で、しかも初級後半レベルでこのような作文を書いたアレックスさんに拍手を送りたいと思いますが、一方、「今の日本の若者は、どんな作文を書くのだろうか」と考えてしまいます。

みねまさし ながの
峯正志・長野ゆり (総合日本語コース担当)

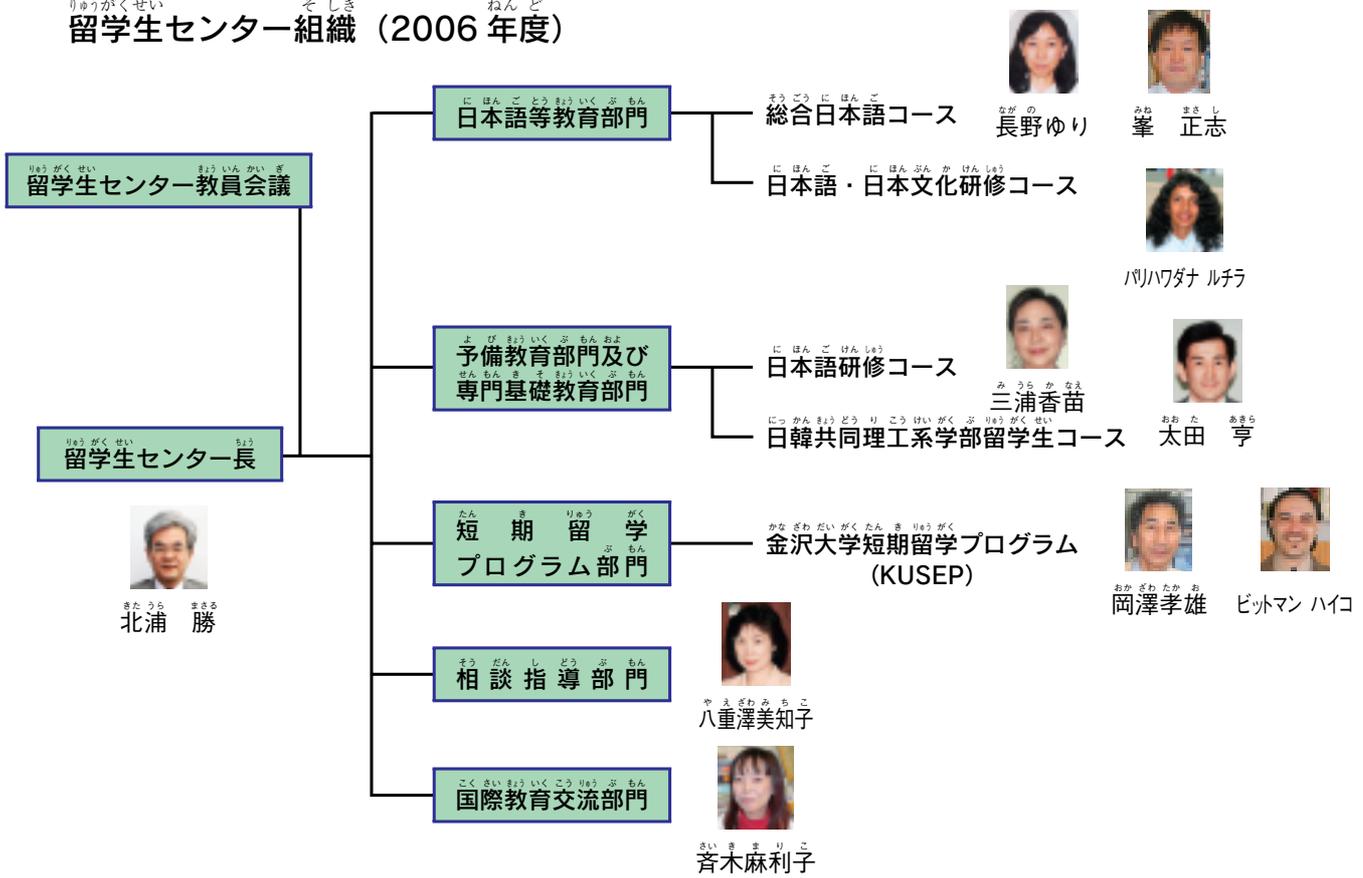


上級Fクラス。クラスでドラマを演じた後で

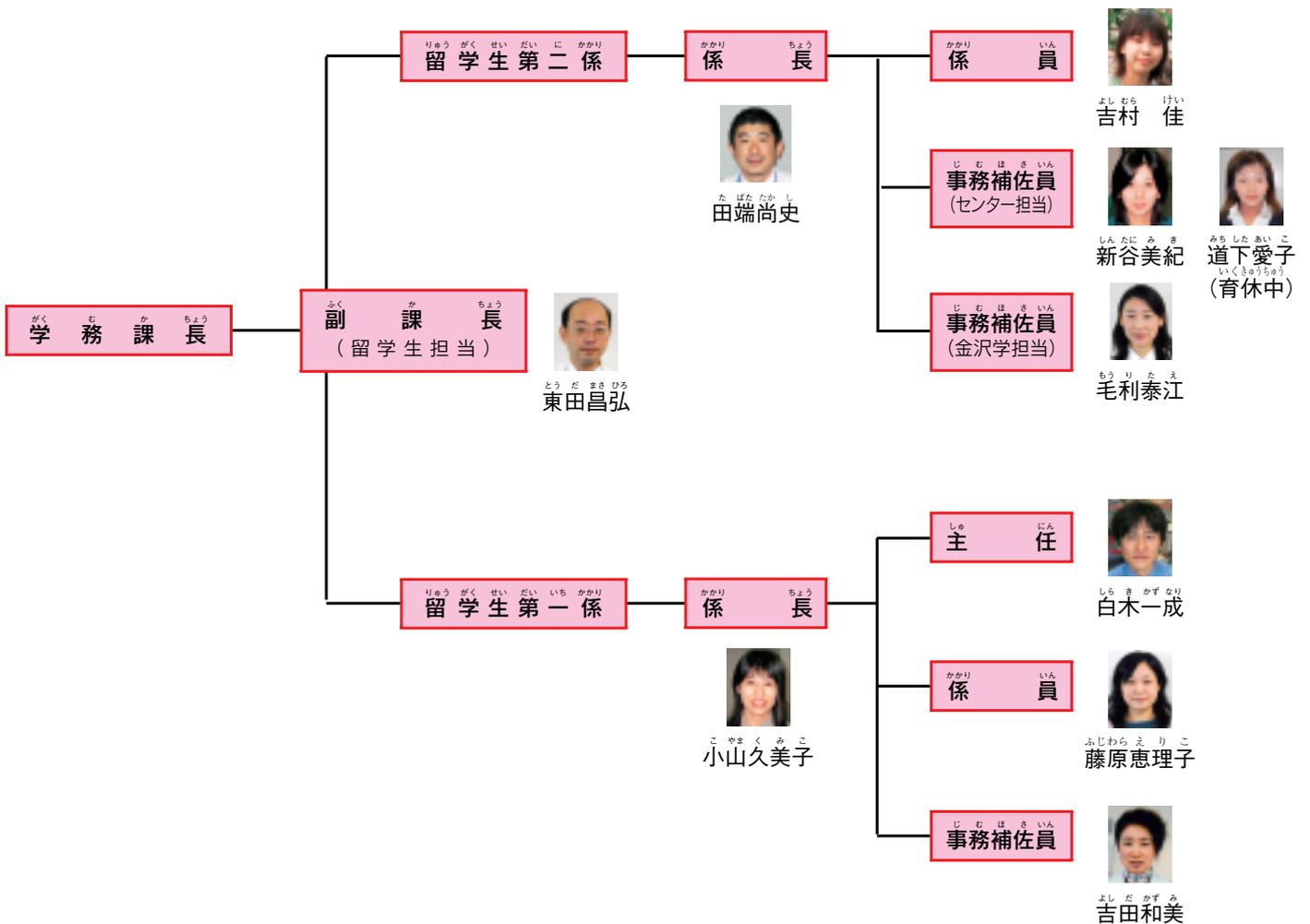


初級Bクラス。授業の後で

留学生センター組織 (2006年度)



学務課留学生係組織 (2006年度)



りゅうがくせい

留学生センターのホームページが新しくなりました！

あたら

2006年8月23日から留学生センターのホームページが新しくなりました。サイトマップをつけたほか、センターが提供するコースのしょうかい紹介や時間割などもわかりやすく1ページにまとめられています。

日本語版（下図）のほかに、ほぼ同じ内容の英語版もあります。韓国語版と中国語版も今後作る予定です。ほかの留学生にもぜひ教えてあげてください。

にほんごばん
日本語版 URL

<http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp>

えいごばん
英語版 URL

<http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp/eg/kuis.html>



金沢大学留学生センターニュース 第10号

2006年9月30日発行

発行 金沢大学留学生センター

〒920-1192 金沢市角間町

TEL (076) 264-5188

FAX (076) 234-4043

ryuiku@ad.kanazawa-u.ac.jp